

国際協力

ESDと市民活動

日時：平成20年2月10日（日） 13:00～15:00

講師：山中 令子（NIED国際理解教育センター代表）

概況



■NIEDについて

NIEDは、国際理解教育を行っているNGOです。国際理解教育とは、主に人権教育と環境教育の参加型の取り組みです。国際理解教育を参加型で行う理由は、学んだことを実際に使えるようになることを目的としているからです。環境教育は大きく、野外で実際に自然に触れ合うことを通して環境感度を高めるものと、環境課題解決のために原因を分析し手立てを考え出すものがありますが、NIEDは主に後者を提供しています。

■ワークショップ

2つのグループに分かれて、4つのアクティビティを行いました。

(1)自己紹介:①あいち海上の森大学入学の動機、②講義の中で印象に残っていること、③一番関心を持っている環境問題を各自考え、グループ内で発表する。

目的:人は関わることなしに、関係性を築くことはできませんし、よりよい社会も、人を巻き込みながら関わりながらでないと築くことができません。コミュニケーションが鍵となります。

この自己紹介アクティビティでは、コミュニケーションの3要素である、考える・伝える・聞く、事を通し、自分を振り返る＝考える、自分を相手に開く＝伝える、相手を受け入れる＝聞く、という作業をしました。意識的に行うことでコミュニケーション能力は養うことができます。

日本人は環境問題に関する知識は多いですが、実際の行動につながりにくい傾向が

あるようです。「知っているけど、していない」です。分かっている、新たにきづいたことを行動につなげるのがESD(Education for Sustainable Development)の役割です。

他のアクティビティは以下の通り:

(2)「環境問題！どんな問題？」:環境問題と聞いて思い浮かぶものをリストアップし、グループで共有しながら分類整理してみる。分類整理ではKJ法とマトリクス分析という方法を使いました。

(3)「地球の数字～データを読み解く」:地球環境の現状を表す数種類のデータを一人1種類読み解く。書かれていた内容、分かったこと、及び、印象的なデータを、他のメンバーに説明する

(4)「持続可能性のカギ」:江戸時代の生活における物質の循環を描いたイラストを見ながら、今と江戸時代の違いを考え、持続可能な社会づくりのためのポイントと自分が今できることを考える